

近年、美術館の社会的役割が問われているなかで、全国的に教育普及事業を重視する傾向が強くなりつつある。2004年度に開館した当館は、開館当初から意識的に教育普及に重点を置く活動を行ってきた。開館時の大きな挑戦として、「子どもたちとともに、成長する美術館」というミッションのもとに試みた「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」は、美術館に子どもが集う風景を作り出し、子どもを通じて地域と美術館をつなぐ一助となった大きな教育普及プロジェクトであった。

2006年度には、これを長期的に継続できるプログラムへと進化させ、さらに当館のコンセプトである「公園のような美術館」を目指して、新たな対象に向けても教育普及事業を試みた。この項では、継続的なプログラムも含め、対象別に2006年度の教育普及活動を振り返ってみたい。

学校連携事業

「まちに活き、市民とつくる、参画交流型的美術館」、「子どもたちとともに、成長する美術館」をミッションとする当館では、開館前には学校への出張授業や美術館外での作品鑑賞、開館年度には金沢市内の全小中学生を招待する「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」を実施し、地域の学校と連携を図ってきた。

美術館の魅力は、世界のアーティストの様々な表現を直接感じることができる点にある。しかし、学校に作品を展示する、美術館で作品を鑑賞するといった、作品、児童生徒、プログラムの移動だけでは、単なる協力関係であって、連携とはいえない。地域的美術館の利点を最大限に教育現場に生かすためには、美術館と学校が協同してプログラムを開発するなど、一歩進んだ連携の仕方が必要である。

当館では、2006年度、市内の小学4年生を対象として、コレクションを鑑賞する新たな「ミュージアム・クルーズ」を始動した。これは開館年度の大型プロジェ

クトを10年間継続可能な規模に構成しなおしたものである。現在10歳の子どもたちが20歳になったときの彼らと美術館の関係、10年間にわたる学校と美術館との連携関係を見つめた実験である。

また、この事業の運営にはエドューケーターがあたっているが、担当キュレーターや小学校教諭が鑑賞ツールであるガイドマップ作成に関わり、ボランティアが子どもたちの鑑賞サポートをつとめるなど、多くの人々の協力によって成立していることにも触れておきたい。

2005年度に文化庁芸術拠点形成事業の一環として実施した「まるびいアートスクール・プログラム」は、美術館の教室化と、学校—美術館間の連携強化を目的に始動した事業で、学校における造形活動と美術館における鑑賞活動を融合させ、美術館機能を活用した新しいプログラムの開発を目指している。2005年度は収蔵作家である金沢健一と西山美なコの作品をもとにした2プログラムを市内の2小学校において実施した。2006年度は、コレクション展Ⅲに出品中の小島久弥と、「リアル・ユートピア〜無限の物語」展に出品中の木村太陽の協力を得て、アーティストと学校と美術館をつなぐプログラムを開発した。2005年度は担当キュレーター中心に実施したプログラムであったが、2006年度はプログラム開発にエドューケーターも参加することとなり、学芸課全体としての学校連携事業に進化しつつある。

2006年度は、こうした特別プログラム以外にも、図工・美術の鑑賞授業に美術館を利用する学校が多くなってきた。無料の送迎バス「アートバス」や、教職員が無料で展覧会を鑑賞できる「教職員無料ウィーク」が浸透し、クラス単位、学年単位で気軽に美術館を訪れる土壌が整ったこともその一因であるかもしれない。しかし、最近では、単に美術館を訪問するだけでなく、展覧会鑑賞を中心とした授業のプログラムに展覧会担当キュレーターやエドューケーターが関わるようになってきている。こうして、日常レベルでも学校との相互協力が深まりつつあることは、今後の連携活

動にも影響していくだろう。

子ども対象プログラム

当館では、キッズスタジオを拠点とした子ども向けプログラムを定期的に開催している。

休日には、子どもたちが造形遊びを自由に楽しめるブレイルームとして開放するほか、展覧会に合わせたワークショップも実施している。

2006年度は、美術館の利点を生かし、展覧会と連動した鑑賞プログラムやワークショップを実施した。「コレクション展Ⅰ」及び「コレクション展Ⅱ」、「人間は自由なんだから：ゲント現代美術館コレクションより」展、「artificial heart：川崎和男展」、「リアル・ユートピア〜無限の物語」展において、担当キュレーターとエドューケーターが打ち合わせを重ね、鑑賞と制作を組み合わせたプログラムを企画した。

プログラムの対象年齢は通常小学生から中学3年生までと幅広く設定しているため、発達段階の違いから、プログラムの内容や進行に制限はあったが、異なる学年の子どもたちが接することによって、鑑賞、制作ともに表現に多様性が生まれ、美術館の特色が生かされる結果となった。今後は、参加者どうしの交流にも目を向け、社会と出会う場であることを意識した活動も行っていきたい。

一般鑑賞教育

当館の一般向け教育普及事業は、日常的に提供される鑑賞ツールと、単発的に行われるプログラムとに分けられる。前者には作品又は展示室ごとの鑑賞シートや音声ガイドがこれに該当し、後者には展覧会関連アーティストや研究者による講演会、担当キュレーターによるギャラリートーク、ワークショップなどがあげられる。

当館の展覧会鑑賞ツールとしては、作品の鑑賞シー

2006年度の教育普及事業

成長する教育普及 — その実践

平林 恵

ト設置が継続的に行われているが、2006年度は、「コレクション展I」及び「コレクション展II」において音声ガイドを導入した。所蔵作品ゆえデータを今後も使用可能であること、展示期間が長期にわたることから、1回100円という安価での貸出が実現し、多くの来館者に利用され、好評であった。貸出件数が1ヶ月に2,000件を超えることもあった。

また、教育普及プログラムとしては、展覧会ごとに開催される講演会、アーティストトーク、ギャラリートークが定例化してきている。このなかで、2006年度は新たな教育普及対象の開拓を試みた。現代美術という分野に対して、あるいは美術館という場に対しての固定観念から来館へのとまどいがあると感じられる、シニア世代と子育て世代へのアプローチである。

シニア向けプログラム「ミュージアムで団楽～Listen to My Story」は、「リアル・ユートピア～無限の物語」展鑑賞プログラムとして実験的に開催したものである。「ミュージアム・クルーズ」の手法を取り入れ、作品を前に自由に意見を交換し、作品をきっかけに思い出されることを鑑賞者が各自の物語へと発展させるという内容で、会期中に3回開催した。参加者からは、情報にとらわれないで自由に鑑賞する楽しさ、人と一緒に作品鑑賞することによる発見などが感想として寄せられた。

子育て世代対象のプログラムは、「ママノヤ向けまるびいガイド」と題し、小さな子ども連れでも美術館を楽しんでもらえるよう企画した。初回には、託児室や授乳室、親子で楽しめるキッズ・スタジオなどの施設ガイドに加え、いつでも気軽に訪れることができる無料ゾーンのコミッション・ワークの楽しみ方を提案した。さらに、別の日程では「コレクション展II」を中心としたガイドツアーも行った。このプログラムについては反響が大きく、需要の高さを実感した。

「一般」という言葉に含まれる対象は多様であり、「公園のような美術館」を目指す当館では、訪れる人々の年代、興味にさらに大きな幅が想定される。開館まもない美術館が地域の人々の愛着を得るためには長い時間を必要とするだろう。本年度の活動は、アートとの出会いの場の創出に重点を置いた、いわば種まきのようなものである。この種が芽を出すにはまだ時間がかかるだろうが、長期的な展望をもって

継続することで、地域に根ざした美術館となることを願うものである。

ボランティア事業

当館のボランティア活動は、開館前の2004年7月に発足した金沢21世紀美術館友の会 zawardの自主的な活動を前身とする。その活動は館内案内からワークショップのサポート、展覧会のガイドまで多岐にわたり、2006年3月までの1年半、自由な発想で独自の活動を続けてきた。

2006年4月、ボランティア活動を美術館の正規の事業に切り替えると同時にボランティア登録制度を開始し、広く一般から希望者を募ることとなった。美術館はボランティアを来館者との架け橋と捉え、ボランティア活動そのものを教育普及事業の一部に位置づけている。現在、ボランティアの募集は展覧会事業と連動して行われ、その活動は各展覧会の運営や教育普及プログラムに大きく貢献している。

2006年度は、「コレクション展I」及び「コレクション展II」に関してクルーズ・クルー、「artificial heart: 川崎和男展」に関して鑑賞ナビゲーター及びワークショップアシスタント、奈良美智展「Moonlight Serenade 一月夜曲」に関しては展覧会の一部である「Pup Patrol」や「Pup Up the Dog」を運営するボランティアが活動した。いずれも展覧会や作品・作家に関する知識を必要とするだけでなく、鑑賞者とのコミュニケーションのスキルが必要とされる内容である。ボランティア希望者は、展覧会担当者や教育普及担当者による説明会及び研修に参加し、展覧会・作品・作家についての基礎知識を得ることが活動条件となっているが、鑑賞者とのコミュニケーションについては、各自が現場で繰り返し鑑賞者と接することで自らスキルを磨いていった。また、活動中に各自が自主的に学ぶことで知識を増やし、鑑賞者への対応にも自信が生まれたように思う。

自主運営のボランティアから美術館管轄のボランティアへの移行により、2005年度までのボランティア経験者からとまどいの声も聞かれた。現在は多くの美術館でボランティアが活動しているが、美術館との関わり方は多様で、一つの答えを導きだすことは難

しい。スタッフとボランティアが美術館活動の長期的な展望を共有し、現場の声を聞きながら、時間をかけてよりよい方向を見つけていくことが必要である。

金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム

当館の次なる挑戦は、十代後半以降の若者を対象とした教育プログラムである。「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」と名付けられたこの事業は、芸術活動参画の機会を提供することにより、人間形成に貢献することを目的としており、ニート支援をも視野に入れている。美術館の社会的役割を拡大する実験的なプログラムであるといえるだろう。

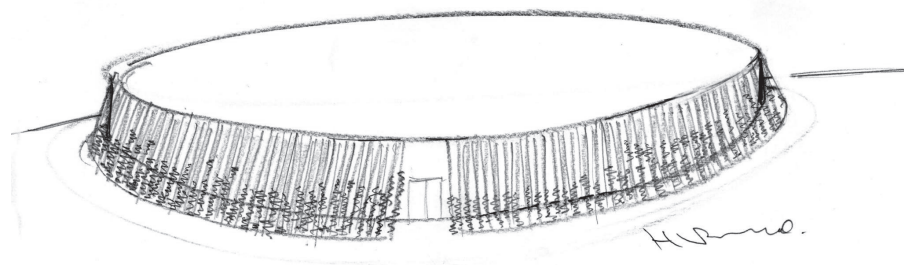
2006年度は、その準備として、当館がモデルとしたスウェーデンのストックホルム近代美術館の高校生向け教育プログラム「ゾーン・モデルナ」のコンセプトや実例を紹介する講演会を開催したほか、スタッフが実地調査に出かけて準備を進めてきた。

2007年度には、そのメインプログラムとして、日比野克彦をプロデューサーに迎えた教育普及事業、日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド→アウェイ方式」が始動する。アートを媒介としていろいろな人々、地域と出会うことで自分を発見し、新しいつながりを作り出していくことが本プログラムの狙いである。

また、他の展覧会との交流事業、若者を対象とした長期間のワークショップや、多様なボランティアの育成、作家のネットワークを生かした全国各地のボランティアとの交流など、当館の教育普及事業を包括した、年間を通した事業となる。さらに、石川県図工・美術教育研究大会と連携した研究授業を行うなど、学校連携の面でも可能性を探る。

「世界の「現在(いま)」とともに生きる美術館」を特徴とする、21世紀の新しい美術館として、当館は時代をリードする使命を負っている。しかし、一方で、「まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館」とは、地域に育てられる美術館である。教育普及事業には、未来を展望する長期的な視点と、地域に根ざし、ともに成長する着実な歩みが必要だといえるだろう。

(ひらばやしめぐみ/キュレーター)



日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド→アウェイ方式」
「明後日朝顔プロジェクト21」のためのスケッチ

Sketch for The Day After Tomorrow Morning Glory Project 21
segment of Katsuhiko Hibino Art Project: HOME→AND→
AWAY System

In recent years, as questions are raised concerning the societal role of art museums, there has been a growing tendency for art museums around the country to place a greater emphasis on education programs. From the outset, the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa, which opened in 2004, has consciously undertaken activities that place a priority on education and development. The Museum Cruise Project, a major challenge that the museum took on at the time of its opening based on its stated mission of becoming an art museum that grows together with children, was a significant education initiative that helped establish closer ties between the museum and the local community by creating within the museum spaces where children are likely to gather.

In 2006 the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa developed this into a program that is more sustainable over the long term, and at the same time launched a number of other education initiatives aimed at other groups in an effort to realize the concept of “a park-like art museum”. The following is a summary of the museum’s education activities, including ongoing programs, for each target group in fiscal 2006.

Programs undertaken in collaboration with schools

The 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa, which has as its mission “to reinvigorate Kanazawa and its citizens” and “to grow with children” has actively sought to involve itself in collaborative projects with schools in the local community. Prior to its opening it offered classes in schools and

ran extramural courses in art appreciation, while in the year of its opening it organized the Museum Cruise Project and invited all elementary and junior high school students in Kanazawa city to take part.

One of the things that makes art museums so appealing is that they offer people the opportunity to experience myriad forms of artistic expression created by artists from around the world. However, while programs that bring art and students together by bringing artworks into schools and encouraging students to visit art museums do point to a cooperative relationship of sorts, they cannot be said to represent real collaboration. In order to make the most in the classroom of the advantages of having an art museum in the local community, it is necessary to go a step further, and encouraging, for example, art museums and schools to collaborate in the development of education and other programs.

In fiscal 2006 the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa launched a new Museum Cruise aimed at getting the city’s fourth graders along to view the collections. This program sought to restructure the major project initiated in the museum’s opening year on a ten-year sustainable scale. It was an experiment that looked at the relationship children currently aged ten years will have with the museum when they turn twenty, and this ten-year relationship between schools and the museum.

Although the program is being run mainly by educators, it is realized through the efforts of a great many people, including the involvement of curators and instructors in the creation of guide maps and other appreciation

tools and volunteers working to support the children’s viewings.

In fiscal 2005, the Marubii* Art School Program, which was implemented in conjunction with the Agency for Cultural Affairs’ program for establishing artistic bases, was launched with the goals of transforming the museum into a classroom and strengthening ties between schools and the museum. The aim is to develop a new program that builds on the functions of the art museum by combining the art and design activities that normally take place in schools with the art appreciation activities that normally take place in art museums. In the previous fiscal year, two programs were implemented in two elementary schools in Kanazawa based on works by KANAZAWA Kenichi and NISHIYAMA Minako, two artists whose works are included in the museum’s collection. This year, the museum developed a program linking together artists, schools and the museum with the cooperation of KOJIMA Hisaya, whose work was on display in CollectionII exhibitions at the time, and KIMURA Taiyo, whose works formed part of the *Real Utopia—Stories of the Unlimited* exhibition. While last year programs were implemented mainly centered on exhibition curators, this year educators have also been involved in program development, with the result that programs are in the process of evolving into collaborations with schools involving the Curatorial Section in its entirety.

In addition to these special programs, an increasing number of schools are incorporating the museum into their art and design appreciation classes. One reason for this may be that the groundwork has been

Education activities in fiscal 2006

HIRABAYASHI Megumi

Curator

*Marubii is the nickname of the 21st Museum of Contemporary Art, Kanazawa.

laid to enable students to visit the museum readily in class or year groups, with services such as the free Art Bus available to ferry students to and from the museum and Teachers Free Week now firmly established. Recently, however, rather than simply visiting the gallery, programs have been put together in which exhibition curators and educators become involved in classes centered on particular shows. It is anticipated that this deepening of the mutual cooperation between museum and schools at the day-to-day level will gradually influence the shape of collaborative activities in the future.

Programs for children

The 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa regularly holds programs for children based at its Kids' Studio. As well as making the studio available to children on holidays to use as a Playroom where they can experiment with various media, the studio also hosts workshops timed to coincide with exhibitions at the museum.

This fiscal year, a number of art appreciation programs and workshops were held making full use of the museum's facilities. To coincide with the *Collection I*, *Collection II*, *We Humans are Free: From the Collection of S.M.A.K., Museum of Contemporary Art, Ghent*, *artificial heart: Kazuo Kawasaki*, and *Real Utopia—Stories of the Unlimited* exhibitions, exhibition curators and educators got together to plan a series of programs combining art appreciation and creative activities.

Because programs are usually aimed at a wide age group extending from elementary to junior high schools students, there are limits

on the direction and content of the programs due to the different stages of development of the students involved. At the same time, the contact between children of different ages led to a diverse range of expressions both in terms of appreciation and creation, in the process bringing out the best in the unique characteristics of the museum. In the future, the museum intends to also direct its attention towards exchanges between participants themselves by fostering activities based on an awareness of the role of the museum as a place where people engage with society.

General art appreciation education

General education programs at the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa consist of appreciation tools provided to visitors on a regular basis and one-off programs. The former include such things as explanatory sheets for individual works or galleries as well as audio guides, while the latter include lectures by artists associated with particular exhibitions or researchers, gallery talks by curators, and workshops.

Although the museum continues to provide exhibition appreciation tools in the form of explanatory sheets on individual works, this fiscal year it also introduced audio guides to *Collection I* and *Collection II*. Because the data can be reused in the future due to the fact that the works are from the museum's collection, and because these exhibitions are likely to be on display for a long time, it is feasible to lend the guides out for the relatively cheap price of 100 yen a time, and for this reason they have been widely used by visitors and proven to be very popular. In some cases over 2000 units

were lent out in a single month.

In addition, lectures, talks by artists, and gallery talks held to coincide with each exhibition have become a regular part of the museum's education program. This year, a particular effort has been made to develop programs targeting previously neglected groups. This involved making approaches to seniors and the childrearing generation, two groups who often think twice before visiting art museums due to certain fixed ideas about the field of contemporary art or about art museums in general.

For seniors, Listen to Get Together at the Museum My Story was held as an experimental program in conjunction with *Real Utopia—Stories of the Unlimited*. For this program, which was held three times over the duration of the exhibition, methods developed for use with the Museum Cruise program were adopted, with participants encouraged to exchange opinions freely and develop narratives of their own based on ideas that came to mind as a result of viewing the works concerned. The responses from participants were positive, with many expressing delight at being able to enjoy the works without being bound by excessive information and at being given the opportunity to make discoveries of their own through appreciating the works with others.

A program designed for the childrearing generation known as Marubii Guide for Mamas and Papas was introduced to enable people to enjoy the museum even when accompanied by young children. Initially this involved producing a guide to the crèche, breast-feeding room, Kids' Studio, and other facilities at the museum, as well



「コレクション展 II」における「ミュージアムクルーズ」
The Museum Cruise program held in conjunction
with *Collection II*



「まるびいアートスクール・プログラム」木村太陽作品鑑賞
Viewing Kimura Taiyo's works on the Marubii Art School
Program



「コレクション展 II」関連ワークショップ「柱の肖像を作ろう!」
The "Create a portrait of a column!" workshop
held in conjunction with *Collection II*

as suggestions on how to appreciate the commissioned works in the free zone, which anyone can visit whenever they have the opportunity. Guided tours of *Collection II* and other collections were also organized. The response to this program was overwhelming, suggesting a high level of demand.

The term “general” covers a diverse range of visitors, and given that one of the goals of the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa is to establish itself as a “museum open to the city like a park,” people representing an even broader range of generations and interests can be expected to visit the museum in the future. It usually requires a long time for a newly established art museum to gain the affection of the local population. With this in mind, the activities carried out over the last fiscal year resemble the sowing of seeds, in that the emphasis has been on creating opportunities for people to encounter art. Although it will probably be some time before these seeds germinate, by continuing these activities with a view to the long-term prospects, it is hoped that the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa will grow into an art museum firmly rooted in the local community.

Volunteer programs

The volunteer programs at the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa developed out of the voluntary activities of the museum’s members’ association, *zawart*, which was established in July 2004 prior to the opening of the museum. These activities were wide-ranging, including everything from showing visitors around the museum

to supporting workshops and providing exhibition guides, and in the one and a half years up to March 2006 *zawart* continued to perform a range of imaginative and original activities.

In April 2006, however, to coincide with the changeover from volunteer activities to a formal range of programs run by the museum, a volunteer registration system was introduced, with candidates from all walks of life offering their services. The museum views volunteers as a valuable link between itself and visitors, and formally recognizes volunteer activities as a part of its education program. The recruitment of volunteers is currently carried out in conjunction with the museum’s exhibition programs, and these activities have a significant impact on such things as the running of individual exhibitions and the overall educational program.

This fiscal year, volunteers were mobilized to act as Cruise Crew for the *Collection I* and *Collection II* exhibitions, as navigators and workshop assistants for the *artificial heart: Kazuo Kawasaki* exhibition, and as operational volunteers for *Pup Patrol* and *Pup Up the Dog*, which formed part of the *Yoshitomo Nara: Moonlight Serenade* exhibition. In all the above cases, this work required not only that the volunteers be knowledgeable about the exhibitions and the artists and their work, but also that they have the skills needed to communicate with the exhibition attendees. Prospective volunteers are required to attend briefings and study meetings with exhibition and educational staff and obtain a basic understanding of exhibitions, artists, and their works as a condition of their engaging in volunteer activities, but as far as

communication with people attending the exhibitions is concerned, each volunteer has polished their own skills through repeated contact with visitors on the museum floor. In addition, individual volunteers have increased their knowledge through study conducted on their own initiative alongside their volunteer work, and this seems to have resulted in greater levels of confidence when it comes to dealing with visitors.

Concerns were expressed by some experienced volunteers who had been active up until last year at the shift from independent volunteers to volunteers under the jurisdiction of the museum. Today, volunteers are active at many museums around the world, although the relationship between museums and volunteers takes many different forms, and it is difficult to come up with a single solution. What is clear is that staff and volunteers need to share a common long-term vision of volunteer activities and spend time listening to the opinions of those with experience in such matters before determining what course to follow.

Kanazawa Youth Dream Challenge Art Program

The next challenge facing the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa is to formulate a program aimed at young people aged in their late teens or older. Known as the Kanazawa Youth Dream Challenge Art Program, the aim of this initiative is to contribute to character building by providing young people with the opportunity to take part in artistic activities, with special support for so-called NEETs (young people not currently engaged in education, employment or training)



奈良美智展「Moonlight Serenade - 月夜曲」
ボランティアによる「Pup Patrol」グループツアー

A Pup Patrol group tour conducted by volunteers
during the Yoshitomo Nara: *Moonlight Serenade* exhibition

also being considered. The program could be described as an experimental program in expanding the social role of the museum.

This fiscal year, as part of the preparations for launching the program, the museum hosted a lecture meeting outlining the concept using as an example the Zon Moderna program initiated by the Moderna Museet in Stockholm, Sweden, which is being used as a model by the 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa. As well, staff from Kanazawa have visited Stockholm to see firsthand how the Zon Moderna program works.

In fiscal 2007, as the first stage of this program, the museum will be launching the *Katsuhiko HIBINO Art Project: HOME→AND ←AWAY System* with HIBINO Katsuhiko as producer. The aim of this program is to encourage participants to discover themselves and forge new relationships by bringing them into contact with a range of different people and with different aspects of their local community, with art as the medium.

The 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa's education programs operate throughout the year and include exchanges in conjunction with other exhibitions, long-term workshops aimed at young people, a range of volunteer education programs, and exchanges with volunteers from around the country making full use of artists' networks. The possibilities of further collaborations with schools are also being explored, including the holding of study classes in association with the Ishikawa Prefecture Art and Design Education and Research Convention.

The 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa has taken on the task of serving

as a model for a new generation of art museums in the 21st century, a mission summed up in the slogan, "To become a "living" museum with world contemporary arts.", At the same time, however, the vision of "a vital, participatory, exchange-oriented museum in the city together with local citizens" calls for a museum nurtured by the local community. One could say that the museum's education program needs to be based on a long-term vision of the future but also needs to follow a steady course of progress firmly rooted in the community.

(translated by Pamela MIKI)



「リアル・ユートピア～無限の物語」展
鑑賞ツアー・シニアプロジェクト

The Listen to My Story program for seniors held in conjunction
with *Real Utopia—Stories of the Unlimited*